



神戸医療福祉専門学校三田校対談取材 日時:平成28年7月20日(水) 場所:神戸医療福祉専門学校

# 神戸医療福祉 専門学校三田校 × 市議会

今回は、神戸医療福祉専門学校三田校に訪問し、介護や福祉の観点から見た市の課題や、学校として取り組んでいることなどについて、お話しをお聞きしました。

**議員:** 教育を通して神戸医療福祉専門学校が目指しているものは何でしょうか。



**澤村校長:** 本校が目指しているのは、「卒業後すぐに役立つ人材を育成する」ことです。人材育成のために「実学教育」「人間教育」「国際教育」を建学の理念としております。その中で特に大切なのは「人間教育」です。いくら優れた技術や素晴らしい能力を持っていても、人間的に魅力のない人は社会の役に立つことはできないと考えるからです。社会を支える人材を育成するためには、人間教育が一番大切です。そこで、本校では学生に「挨拶すること」を徹底しています。

**議員:** 神戸医療福祉専門学校の学生が本市で地域の医療や福祉について取り組んでいることはありますか。

**今在家教務部長:** 本校は、社会福祉協議会と交流し、地域の講習会の講師を担当する等で地域の

福祉に関わっています。現在は、地域と学校が互いに双方向で学びあう関係での取り組みを行おうと、地域の方に教育のお手伝いをお願いしています。たとえば、スマイルピック（障がい者運動会）に参加させていただき、障がい者の方々に接したり、失語症友の会と連携し、患者さんに実習モデルをお願いしています。最近の学生は、核家族化等の影響で障がい者や高齢者の方々と接する機会が殆どないため、直接患者さんに接することでとても大切な経験をさせて頂いております。また、校内にある関連職種が連携し、一人の患者さんを中心にさまざまな分野の専門職がチーム医療を実践しております。

日本に一つしかない整形靴科では、近隣の保育園で学生が足型計測を行い、靴の重要性をレクチャーする取り組みや、三田マスターズマラソンのスタート会場で足型計測のボランティアを行っています。



神戸医療福祉専門学校  
三田校校長  
澤村 誠志さん



神戸医療福祉専門学校  
教務部長  
今在家 信司さん

## 「人間教育で社会を支える」

**議員:** いろいろな取り組みを通して、本市に多くの協力をいただいていることがわかりました。ところで、本市も今後10年程度の内が高齢化率が県下でトップになります。介護予防が課題の一つですが、市の取り組みをどのように思われますか。

**澤村校長:** 予防の取り組みについては評価するデータがありません。予防は、取り組みによる成果を「見える化」することが大切です。目的意識を持つことと、理学療法士等の評価で運動したことによる成果が見えることが、予防の取り組みを促進させると思います。また、元気な高齢者が地域の中で、個々の得意分野において活躍できるシステムが必要です。市が中心となってシステムの構築をして頂ければと思います。

**議員:** これからは地域医療をどうするのかを、考えていく時期だと思いますが、本市の課題の突破口として、まずここからと思われるのは何でしょうか？

**澤村校長:** まずは、救急救命ではないかと思えます。11万の人口の三田市民病院には全ての診療科を置くことが難しいため、市民病院で全ての治療ができない状況です。ヘリポートを作るな

ど、もう少し広域的に検討していく必要があるのでは、と思います。外国では、人口40万から50万でヘリポートを作っています。いざという時の体制づくりが重要だと思います。

**議員:** 校長がおっしゃるように、広域医療の在り方をこれから考えていく必要があります。このような課題を踏まえ、市政に望むことは何でしょうか。

**澤村校長:** 三田市の要介護（要支援）認定者は3,920人ですが、平成29年4月に総合事業に移行する対象者は、訪問介護利用者と通所介護利用者の約580人です。介護予防給付から外れてしまうの方々の受け皿をどうするのが問題です。三田市には、1次予防事業と2次予防事業を区別せず、地域の実績に応じた地域介護予防支援事業、住民主体の介護予防活動の育成・支援を希望します。これからは、高齢化に伴い医療・福祉において全ての住民が支えあう関係が必要です。市のリーダーシップの基に地域の社会資源を生かし、地域包括ケアの中心を一刻も早く作り活動を行って欲しい。神戸医療福祉専門学校としては、地域介護予防事業において三田市民のお役に立ちたいと思っております。